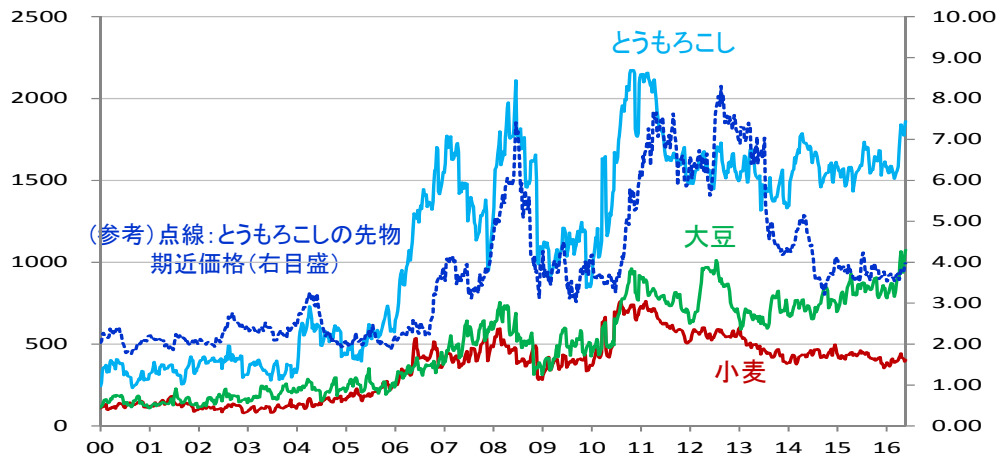


Ⅱ－２（参考） 穀物市場における投機家による先物取引の推移

- シカゴ商品取引所（CBOT）における穀物等先物の投機家の取引総枚数は、近年おおむね横ばいで推移。
- 現在のところ、穀物価格は小幅な動きで推移。投機家による直近売の買枚数は、小麦で売越し、とうもろこし及び大豆で買越しとなっている。

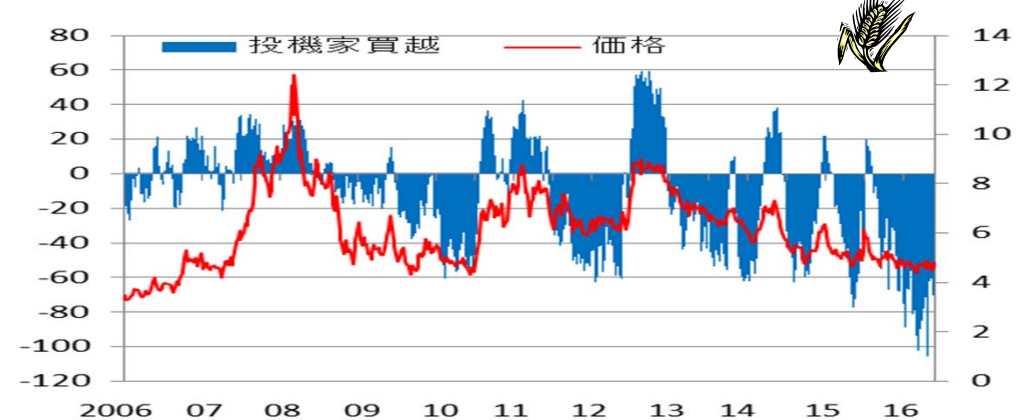
【図１】 投機家の穀物等の取引総枚数（注）の推移（CBOT）
（千枚） （ドル／ブッシェル）



資料：US.CFTC「Futures-and-Options Combined Reports」により作成

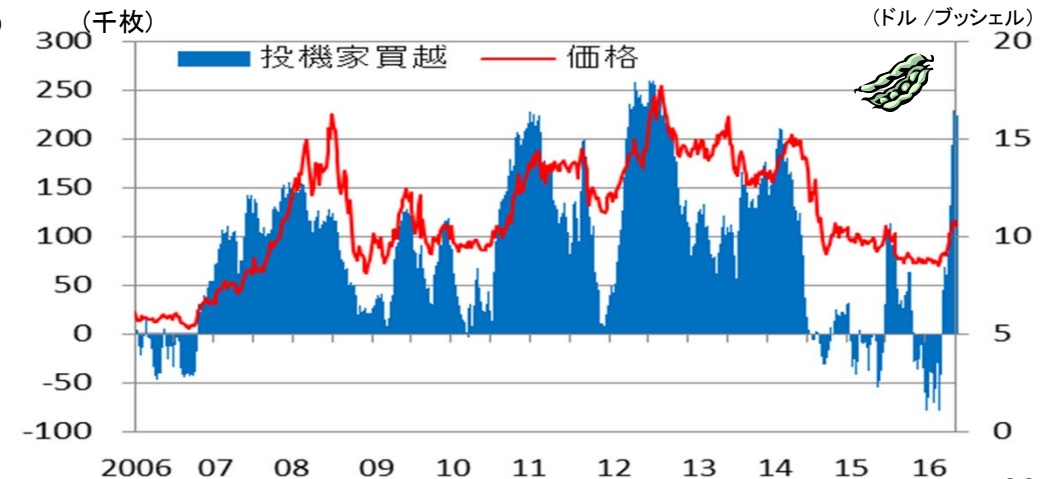
注：取引総枚数は、投機家（NonComm）による先物の買い枚数、売り枚数の合計である。

【図２】 投機家の買越し枚数と先物期近価格の推移（小麦）
（千枚） （ドル／ブッシェル）



資料：US.CFTC「Futures Only Reports」、IGC「Futures Prices」により2006年1月第3週～2016年5月第4週までの毎週火曜日の数値で作成。図3及び図4も同じ。

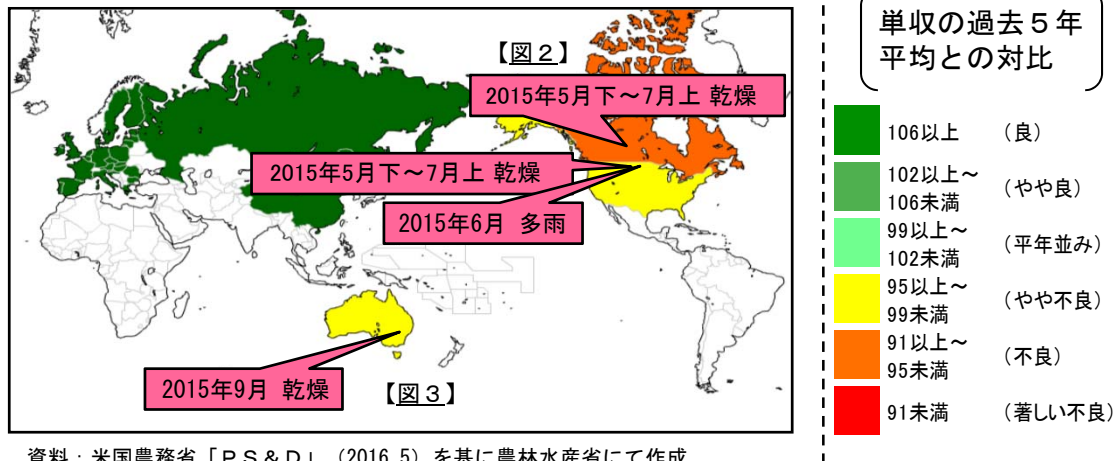
【図３】 投機家の買越し枚数と先物期近価格の推移（とうもろこし） 【図４】 投機家の買越し枚数と先物期近価格の推移（大豆）



Ⅱ-3-(1) 小麦の作柄(単収過去5年平均との対比)と気象の影響

2015/16年度(2016年5月時点)における【小麦】の作柄について、世界全体ではやや良。主要生産国別では、EU、中国及びロシアは良、米国及び豪州はやや不良、カナダは不良。なお、世界全体の生産量を見ると7億34百万トンで、前年度に比べ7.2百万トン(1.0%)増加。

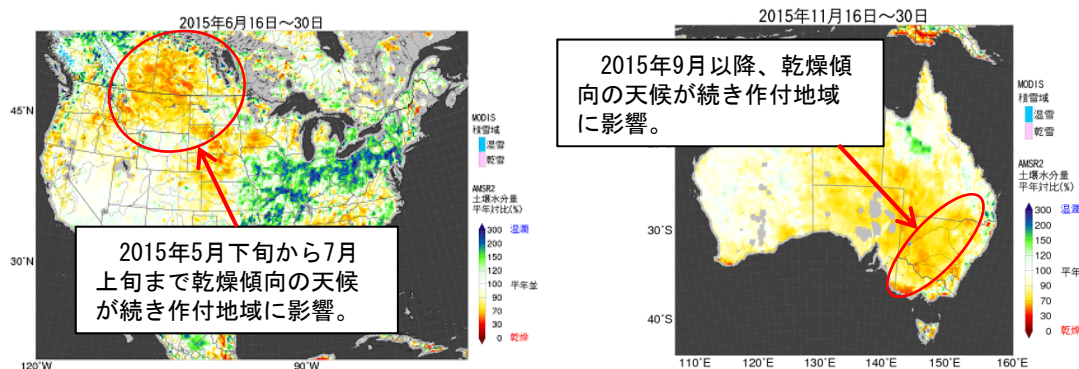
【図1】小麦の作柄



資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成

注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位6カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。なお、EU(欧州連合)の加盟国(28か国)については、EUとして一括区分。

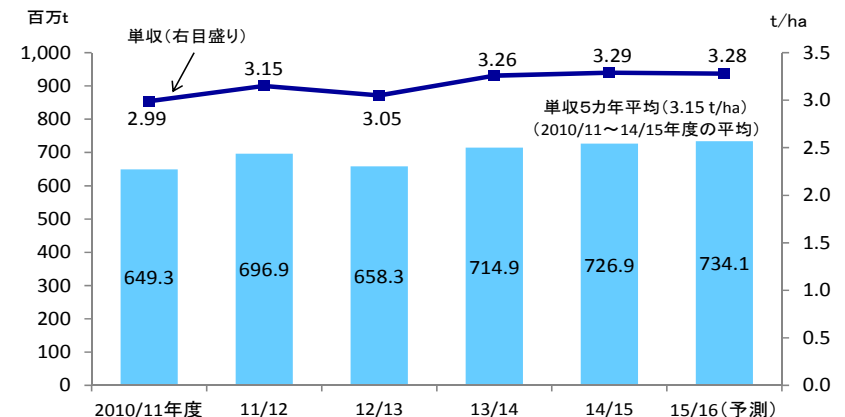
【図2】北米の乾燥状況(図1の参考) 【図3】豪州の乾燥状況(図1の参考)



注：黄色～赤になるほど平年値(2002年7月～2011年6月)と比べ乾燥していることを表す。

資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI) 農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。

【図4】世界の小麦の生産量の推移



資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成

【参考】小麦生産主要国別生産量(2015/16年度)

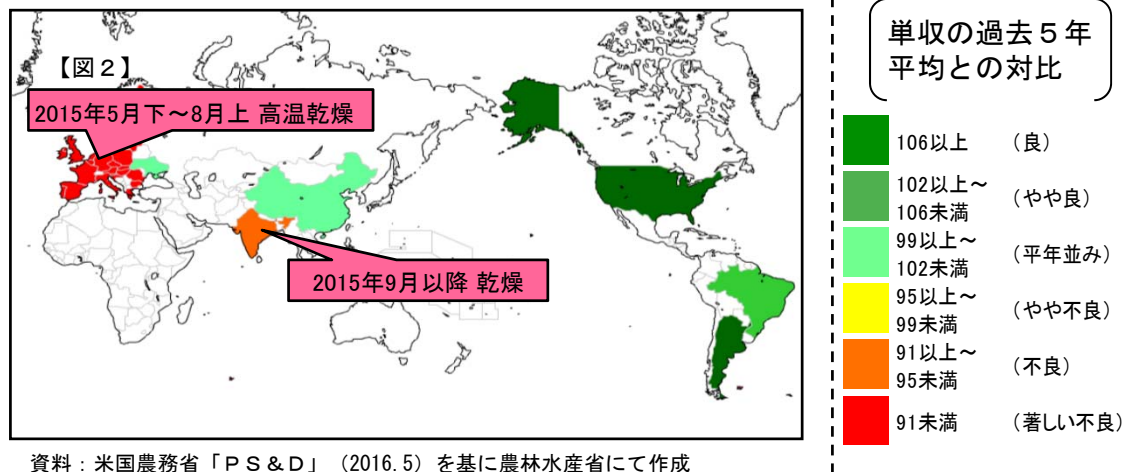
国名	生産量 百万トン	対前年度 増減率 %	生産量 シェア %	単収 t/ha	対単収5 年平均比 %
世界計	734.1	1.0	100.0	3.28	104.1
EU	160.0	2.0	21.8	5.98	109.8
中国	130.2	3.2	17.7	5.39	108.3
ロシア	61.0	3.3	8.3	2.39	111.9
米国	55.8	1.3	7.6	2.93	96.1
カナダ	27.6	△ 6.2	3.8	2.88	94.0
豪州	24.5	6.2	3.3	1.92	97.5

資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成
注：EU(欧州連合)は28加盟国をEUとして一括区分。

Ⅱ-3-(2) とうもろこしの作柄(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

2015/16年度(2016年5月時点)における【とうもろこし】の作柄について、世界全体ではやや良の見込み。主要生産国別では、米国及びアルゼンチンは良、ブラジルはやや良、中国及びウクライナは平年並み、インドは不良、EUは著しい不良。なお、世界全体の生産量を見ると9億69百万トンで、前年度に比べ44.6百万トン(△4.4%)減少。

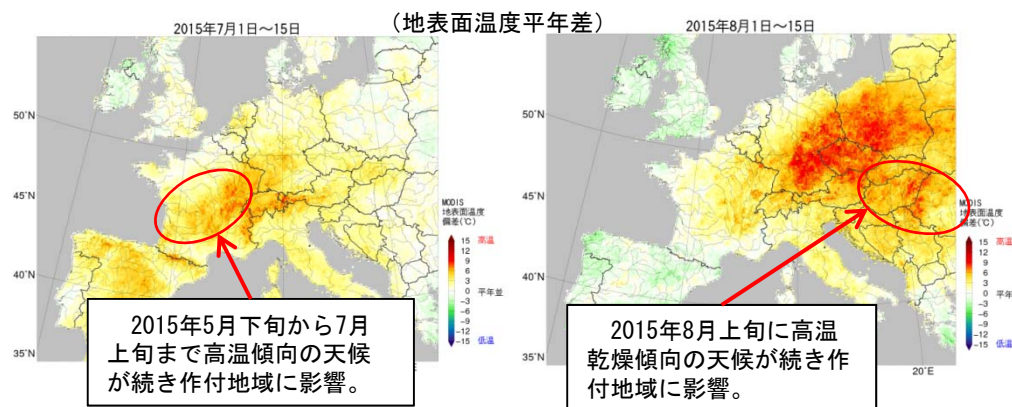
【図1】とうもろこしの作柄



資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成

注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位7カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。なお、EU(欧州連合)の加盟国(28か国)については、EUとして一括区分。

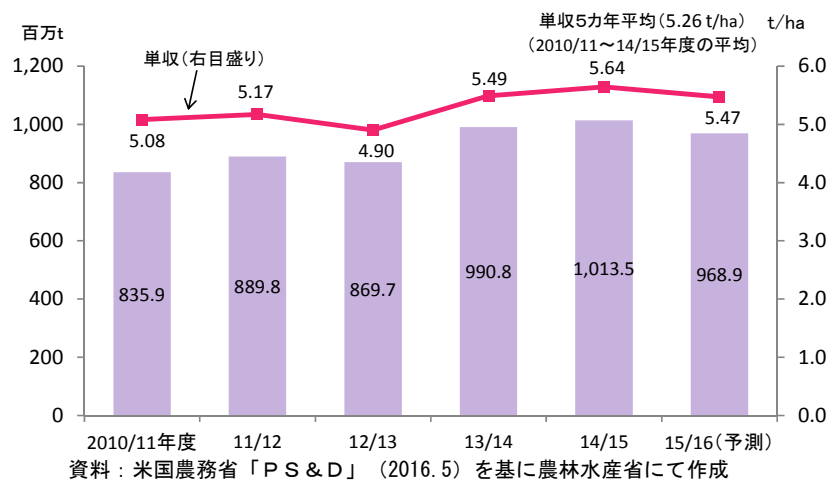
【図2】EU地域における高温状況(図1の参考)



注：黄色～赤になるほど平年値(2002年7月～2012年6月)との差が大きく高温傾向を表す。

資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI) 農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。

【図3】世界のとうもろこしの生産量の推移



【参考】とうもろこし生産主要国別生産量(2015/16年度)

国名	生産量 百万トン	対前年度 増減率 %	生産量 シェア %	単収 t/ha	対単収5か 年平均比 %
世界計	968.9	△ 4.4	100.0	5.47	104.0
米国	345.5	△ 4.3	35.7	10.57	112.0
中国	224.6	4.1	23.2	5.89	101.9
ブラジル	81.0	△ 4.7	8.4	5.06	102.9
EU	58.0	△ 23.5	6.0	6.28	89.6
アルゼンチン	27.0	△ 5.9	2.8	7.94	112.9
ウクライナ	23.3	△ 18.0	2.4	5.71	101.0
インド	21.0	△ 13.1	2.2	2.40	92.6

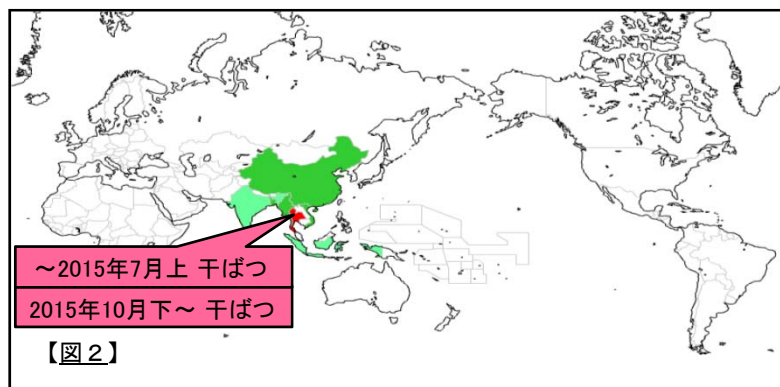
資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成

注：EU(欧州連合)は28加盟国をEUとして一括区分。

Ⅱ-3-(3) 米の作柄(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

2015/16年度(2016年5月時点)における【米】の作柄について、世界全体では平年並みの見込み。主要生産国別では、中国、バングラデシュ、ベトナム及びミャンマーはやや良、インド及びインドネシアは平年並み、タイは著しい不良。なお、世界全体の生産量を見ると4億71百万トンで、前年度に比べ8.2百万トン(△1.7%)減少。

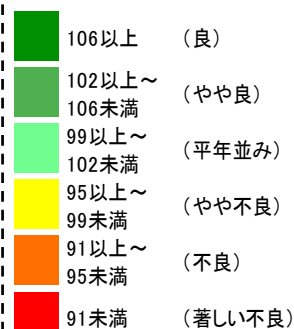
【図1】米の作柄



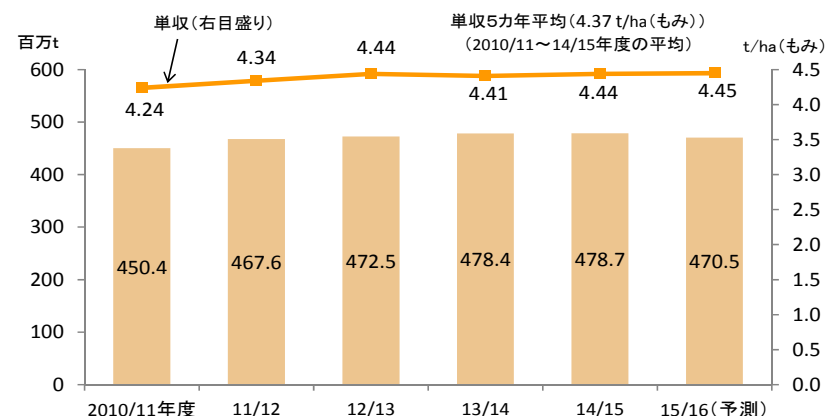
【図2】

資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成
注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位7カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。

単収の過去5年
平均との対比

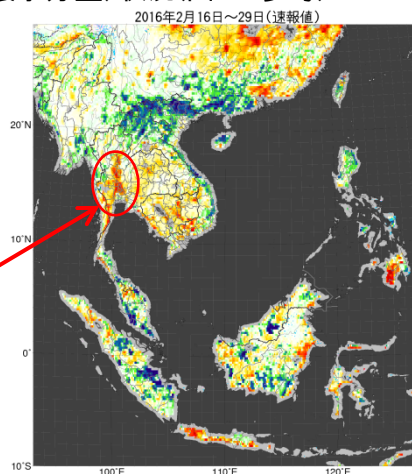
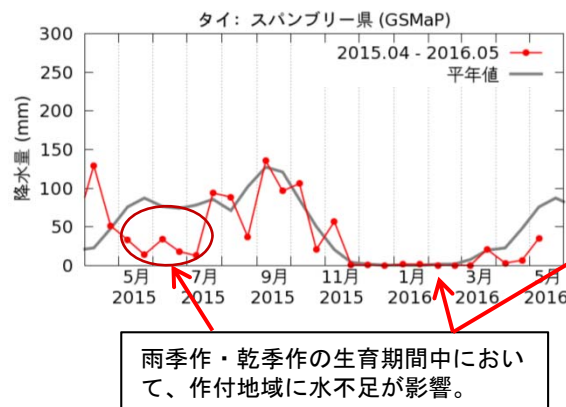


【図3】世界の米の生産量の推移



資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成

【図2】タイの降水量(左図)・乾燥(右図、土壌水分量)状況(図1の参考)



注：黄色～赤になるほど平年値(2002年7月～2011年6月)と比べ乾燥していることを表す。

【参考】米生産主要国別生産量(2015/16年度)

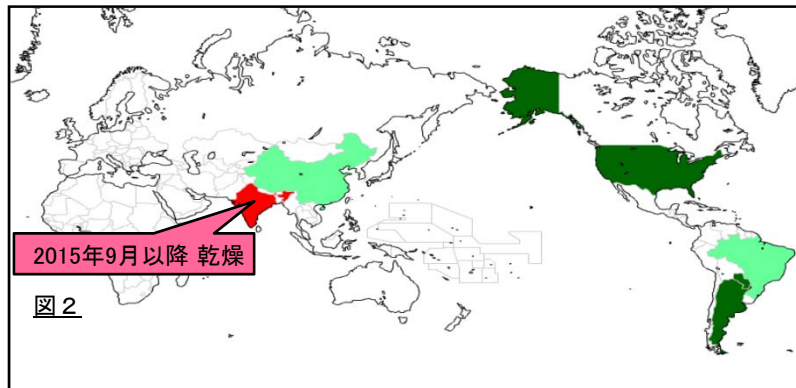
国名	生産量 百万トン	対前年度 増減率 %	生産量 シェア %	単収 t/ha(もみ)	対単収5か 年平均比 %
世界計	470.5	△ 1.7	100.0	4.45	101.8
中国	145.8	0.8	31.0	6.89	102.7
インド	103.0	△ 2.4	21.9	3.61	100.8
インドネシア	35.3	△ 0.7	7.5	4.77	101.2
バングラデシュ	34.5	0.0	7.3	4.40	102.3
ベトナム	28.1	△ 0.2	6.0	5.85	103.3
タイ	15.8	△ 15.7	3.4	2.53	89.5
ミャンマー	12.2	△ 3.2	2.6	2.76	105.7

資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成

Ⅱ-3-(4) 大豆の作柄(単収過去5か年平均との対比)と気象の影響

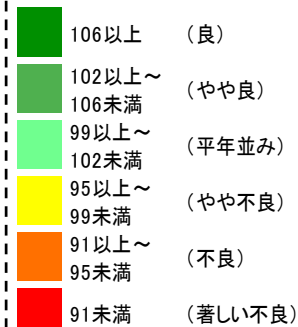
2015/16年度(2016年5月時点)における【大豆】の作柄について、世界全体ではやや良の見込み。主要生産国別では、米国、アルゼンチン及びパラグアイは良、ブラジル及び中国は平年並み、インドは著しい不良。なお、生産量は3億16百万トンで、前年度に比べ3.8百万トン(△1.2%)減少。

【図1】大豆の作柄

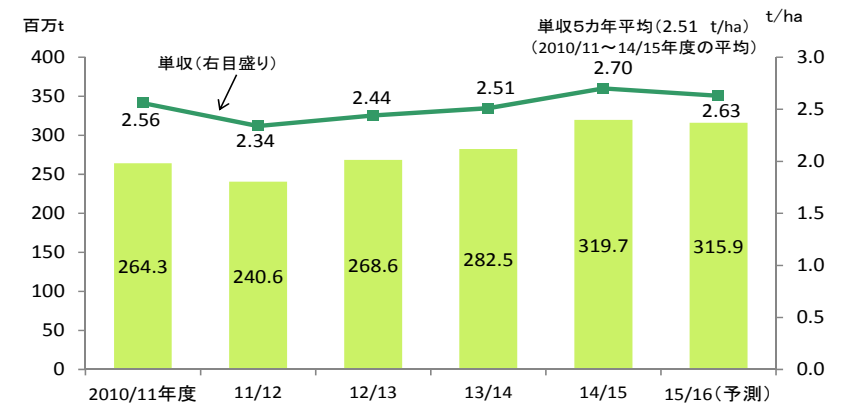


資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成
注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位6カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5か年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。

単収の過去5年平均との対比

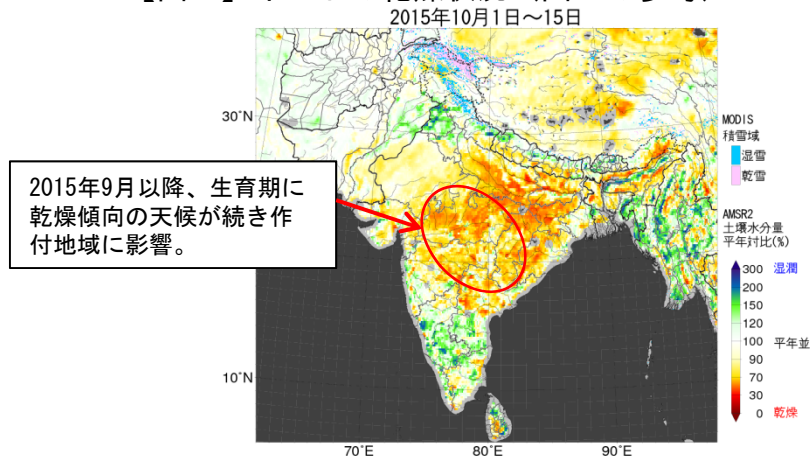


【図3】世界の大豆の生産量の推移



資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成

【図2】インドの乾燥状況(図1の参考)



注：黄色～赤になるほど平年値(2002年7月～2011年6月)と比べ乾燥していることを表す。
資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI) 農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。

【参考】大豆生産主要国別生産量(2015/16年度)

国名	生産量 百万トン	対前年度 増減率 %	生産量 シェア %	単収 t/ha	対単収5か 年平均比 %
世界計	315.9	△ 1.2	100.0	2.63	104.8
米国	106.9	0.1	33.9	3.23	110.7
ブラジル	99.0	1.9	31.3	2.97	101.4
アルゼンチン	56.5	△ 8.0	17.9	2.91	108.6
中国	11.8	△ 2.9	3.7	1.82	101.3
パラグアイ	8.8	8.6	2.8	2.59	112.9
インド	7.4	△ 15.3	2.3	0.65	65.7

資料：米国農務省「P S & D」(2016.5)を基に農林水産省にて作成

※ 気象庁は、2016年5月12日付けのエルニーニョ監視速報(No. 284)で、「2014年夏に発生したエルニーニョ現象は弱まりつつある。エルニーニョ現象は春の間に終息するとみられ、夏にはラニーニャ現象が発生する可能性が高い。」と発表した。